

3 活動やイベントを見学する

1. 「私のクラスのインターアクション」の例



例 1)	どんな場面?	大学内にどんな部活、サークル活動があるか、ガイドを見る。その中から、自分の興味のある活動を 1 つ選んで、まず見学を検討する。
	誰と?	部活の部長や部員
例 2)	どんな場面?	大学内の催し、バザー、イベントなど、単発の活動について調べる。その中から、自分の興味のある活動を 1 つ選んで参加を検討する。
	誰と?	催しの主催者
例 3)	どんな場面?	大学の近隣地域の活動にどんなものがあるか調べる。その中から、自分の興味のある活動を 1 つ選んで、見学や参加することを検討する。
	誰と?	地域の活動グループの代表者
例 4)	どんな場面?	市民講座やカルチャーセンターなどの習い事のパンフレットを見て、まず体験会や見学を検討する。
	誰と?	市民講座やカルチャーセンターの受付窓口
例 5)	どんな場面?	アルバイトの募集を見て、応募することを検討する。
	誰と?	募集元の連絡先の人



見学の問い合わせをしてから、部活の見学に行き、参加、不参加の意志を伝える。(単発のイベントなどは、問い合わせをしてからすぐに参加する。)

2. デザインのポイント／注意点

- この活動の最終目標は、大学のクラスやコースから一歩外に踏み出し、新しいつながりを求めて新しい世界に自分の力で入っていくことができるような、日本語のインターアクション力をつけることです。
- 「どんな場面?」は必然的に、学習者が自分から行動を起こしたり、話しかけたりする必要があるような場面になり、また、「誰と?」でも、初対面の人物とやり取りをすることになります。

- 知っている人のいない集団に入っていくのは、母国で、母国語を使える場合でも負担を感じる場合があります。ましてや外国語を使う接触場面では、学習者にとって緊張感が増す状況であると推察されます。準備できることを考え、あらかじめ準備、練習しておくことで、その緊張感を和らげることができ、スムーズにインターアクションに入っていけるでしょう。
- 学習者のいる環境や性格にもよりますが、大学の留学生であれば、最初は身近な大学内の活動から始めて、そのあとに大学外の活動に広げていくほうが抵抗感は少ないと考えられます。

3. 活動の流れの例

本冊（p. 48）のインターアクションの例を教室でクラス活動として行う場合の一例をご紹介します。ここでは、日本人学生をビジターとして招いて弓道部の部長役になってもらい、見学の申し込みをメールでしたあとの見学場面を練習します。

(1) 事前準備

- ビジターとして参加してくれる日本人学生を募集します（1～2週間前）。募集時に活動内容について簡単に説明しておきます。
 - * 1人の学習者に何人の日本人学生を割り当てるかはそのクラスの学習者数によります。1人の学習者につき2人の日本人学生を部長役と部員役として割り当てるなど、日本人学生数を学習者より多くしてもいいです。また、2、3人の学習者と2人の日本人学生をグループにして、1人の学習者が練習している際に、他の学習者は練習に入らずに脇で見ているようにしてもいいです（1人ずつシミュレーションを行う時間を考えると、1グループにつき学習者は3人くらいまでが限度と考えられます）。
 - * 募集の方法は、学内のメーリングリストに情報を流す／ポスター、チラシを作成する／学部の先生方にお知らせしてもらうなどがあります。
- 可能であれば、ビジターとして参加してくれる学生に、メールでの見学の問い合わせに前もって応じてもらえるよう設定しておき、教室での弓道部の場面は、そのメールでの問い合わせを前提としたものにします。
- 活動に必用なものを準備します。
 - * ICレコーダー、養生テープ、名札（ビジターの役割を記す：「部長」「部員」など）

(2) 当日の活動の流れ (90分、1グループに学習者が2人の場合)

時間配分	活動の進め方		備考
活動日の 2、3日 前	事前活動	◆学習者が弓道部長役として参加してくれる日本人学生に、見学の申し込みのメールを送り、やりとりをする。	・宿題として課す／場合によっては省略
(活動日 当日) 5分	準備	◆教室を弓道部の練習場に見立てて、セッティングをする。 *養生テープ等を使って床に印をつけ、その中を練習場とする。 *遅れてくる学生もいるので、この作業をしている間に学生が揃うのを待つ。	・養生テープ
10分	活動の説明、準備	◆教師がビジターに活動内容、流れ、活動時の注意点などを書いた資料を配布し、説明する。 ◆部長、部員などの役割を振り分けて名札をつけてもらい、上記の弓道部の練習場に入ってもらおう。 *学習者の数によって「部長、部員、見学者（学習者）」の組み合わせ（グループ）が何組できてもよい。 *ビジターは、活動の流れ、どの時点で何を言うかなどが書かれた資料を見ながらやってもよい。（ビジターに使ってほしい表現などは資料に書いておく。） *ビジターに上記の説明をしている間、学習者は活動で使う表現などを再確認する。	・配布資料 ・名札
5分	準備	◆日本人学生に学習者を割り当てる。 *前もってメールを書く活動をしている場合は、学習者が実際にメールをやり取りした日本人学生を割り当てる。 *初対面の人と話す場面であることを重視し、この段階では自己紹介などには時間を割かないようにする。	
25分	活動①	◆各グループで、1人目の学習者が、以下の流れの弓道部の見学のシミュレーションをする。(10分) ①学習者が名乗り、メールで問い合わせたこと、見学に来たことを伝えて、話を通してもらう。⇒部員役に、部長役に取次いでもらう。 ②弓道部の練習を見ながら、学習者が気になることについて、いくつか質問する。⇒部長役に答えてもらい、部員役は練習を続ける設定にする。 ③聞いた答えを学習者が確認する。	・録音する ・評価対象とする

時間配分	活動の進め方		備考
	(活動①の続き)	<p>◆役割の入れ替え、調整をする (5分)</p> <p>◆各グループ2人目の学習者が、見学のシミュレーションをする。(10分)</p> <p>* 学習者から、話しかけたり質問したり、能動的に流れをリードするように指導しておく。</p> <p>* 1グループに何人の学習者を割り当てるかによって、この活動にかかる時間は変わる。</p>	
15分	活動②	<p>◆活動①が一通り終わったことを確認し、各グループで、以下の流れの弓道部の見学のシミュレーションを2人の学習者が順にする。</p> <p>①弓道部に入るか入らないかを伝える。</p> <p>②見学のお礼を伝えて、帰る旨を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・録音する ・評価対象とする
10分	活動③	◆活動②が一通り終わったことを確認し、ビジターに気づいた点、アドバイスなどを述べてもらう。	
15分	活動④	◆ビジターに、実際の大学内の部活の情報（練習が厳しい、留学生が参加しやすい、費用がかかるなど）やおすすめの部活を伝えてもらう。ビジターの入っている部活に興味を持った場合は、連絡先などを聞いておく。	
5分	後片づけなど		

(3) フォローアップタスク

- 録音した会話を聞きながら、『ふりかえりシート』を記入し、感想とビジターと話して興味を持った部活があればそのこともA4の紙1ページ（『ふりかえりシート』の裏）にまとめてもらいます。
- * 実際に活動④で聞いたおすすめの情報をもとに、その部活の見学に行ったり、ビジターに来てくれた学生の入っている部活に興味を持ち、見学に行って、その後入部したという話も耳にしましたので、活動④も学習者にとって貴重な活動になると考えられます。

4. 活動実施のポイント／注意点

- 募集に応じて申し込んだ日本人学生が全員来るとは限らないので、ビジターの人数は、ビジター1：学習者1などとせず、柔軟に考えたほうが無難です。
- 英語や他の外国語を練習することができると思ってビジターに応募してくる学生も時々いるので、学習者の日本語の勉強のための活動であり、日本語を使ってもらえるよう募集の段階で明記しておいたほうがよいと思われます。
- 会話を録音する場合は、ビジター募集の案内の中に載せておいたほうがよいです。

- 弓道部でなくても他の部活で本当に部長をしている学生がビジターとして協力してくれる場合は、設定をその部活に変えて、最初のポスター（p. 48）を作り変えてもいいです。また、協力してもらうことができ、授業時間と合わせることができる部活があれば、学習者と共に訪ねて行って活動するのも一案ですが、そのような設定をすることは現実には非常に難しいので、以上のような教室に日本人学生をビジターとして招いて活動する方式を紹介しました。
- 学習者がそれぞれ、「ほんばん」として本当に自分が興味を持っている部活に見学を申し込み、見学に行く活動は、宿題として課すこともできます。ただし、学習者が会話を録音してもいいかどうか聞き、万が一許可が出なかった場合などを考えると、評価対象に組み込むのが難しいことがあります。また、実際にこのような「宿題」として課したときは、基本的に自分が興味を持っている部活を訪れることにし、必ずクラスメートが1人ついていくことにして実施しました。学習者の性格によっては、教室内のシミュレーションとは違い、緊張度が増してあまり言葉が出てこなくなってしまったという逸話を聞いたことがあるためです。